

25%以下を認める。

- ・その他、目視確認検査方法、用材について、仕上げの程度等に関する事項を定めた。

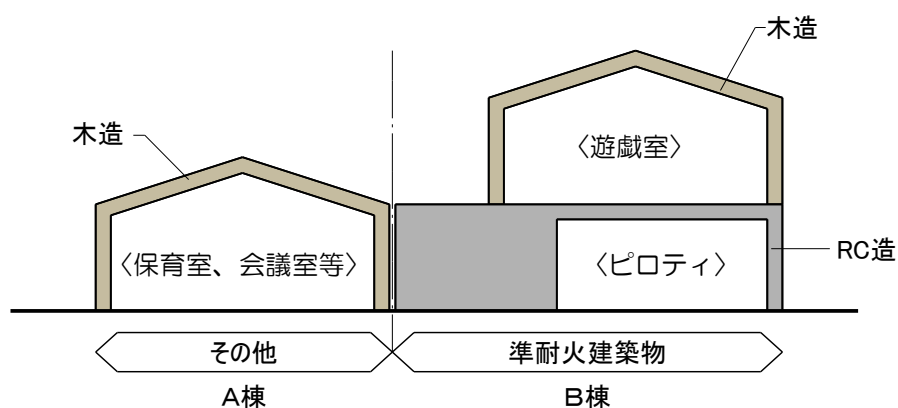
## (2) 検討結果の概要

### 1) 主な建築計画上の条件の整理

- ・延床面積約 1350 m<sup>2</sup>で、防火壁による面積区画が必要な建物規模である。
- ・遊戯室を2階に配置するため、準耐火建築物とすることが要求される。
- ・県産・地域産木材を出来る限り多く用いることのできる架構計画とする。

### 2) 防耐火上の構造

- ・ピロティを含む1階の一部をRC造による耐火構造とし、平屋部分（A棟）と2階建て部分（B棟）を別棟扱いとする。
- ・A棟は、防耐火構造上は「その他建築物」とし、木材の現しが可能な裸木造とする。
- ・B棟は、1階をRC造、2階を木造とした混構造の「準耐火建築物」とする。



### 3) 架構形式と県産・地域産木材の使用

#### 【A棟】

- ・上野原地域で調達しやすいサイズの製材を主体とした構成の切妻屋根。  
(→最終的には、一部トラスを組んだスパン的に厳しい部分は集成材となった。)
- ・「その他建築物」であるため、支障のない部分に関しては構造を現しとする。

#### 【B棟】

- ・遊戯室が8mと大スパンのため、性能が確保しやすい集成材による片勾配屋根。
- ・集成材は、山梨県内で生産可能な中断面で構成する。
- ・当初、登り梁は燃えしろ設計による現しで計画していたが、意匠上の理由により燃えしろ設計は取り止め、防火被覆することとなった。
- ・ただし、二次部材や仕上げ材は積極的に地域産木材の利用に努めることとする。